へ13
3836
18

作題曲多一國虫
錦里老叟
上

門へ13
3836
18

釋迦八相倭文庫四拾一編序

夫賢を賢として色を易るは妻孥雉子の春情色々色々

劍を政事正宗の廓通ひあやさそふも賢と賢らせぶりて色を色とそゝのかす難陀大子も二貫上の戒み肘を冷して賢を守ると方ぶりの位ふ上る吉嘉あれば又善吾生童子の悪ろある大欲却て無欲の十八力尋没く壊の經文を金利弗の危難ふ露一花子ゞ入水の怨霊ふ彼里ふ女が絹川堤のその容体ふ彷彿する何國も今ゞ煩悩ふ迷ひも菩提の種竟ふ仏果を得るなり

安政六己未年孟陽吉日

五万亭應賀誌

釋迦八相倭文庫四十一編

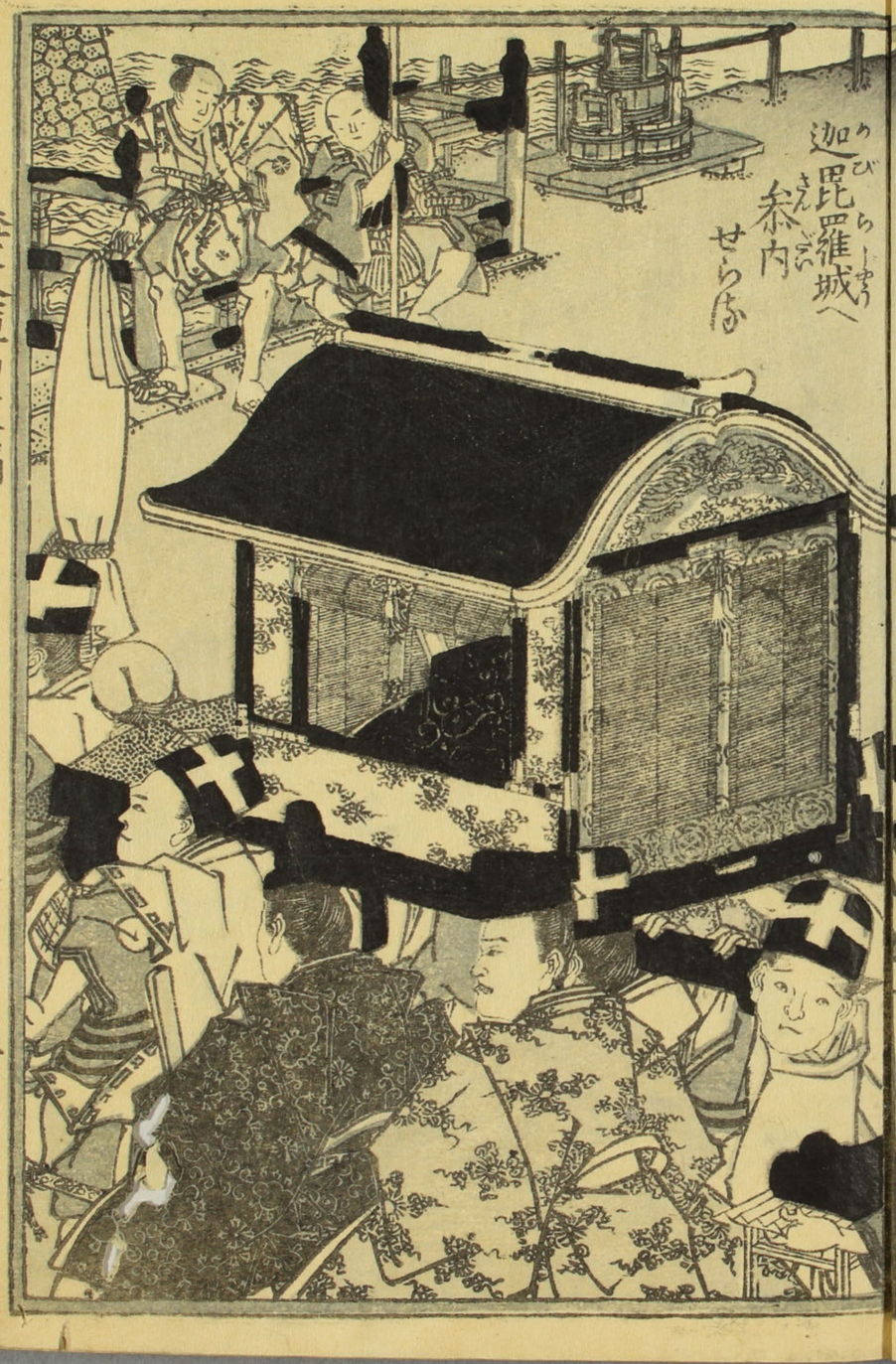
万亭著

玉貝号

乙未春

彩画

難陀太子御即位ありて
御一族並
月卿雲客

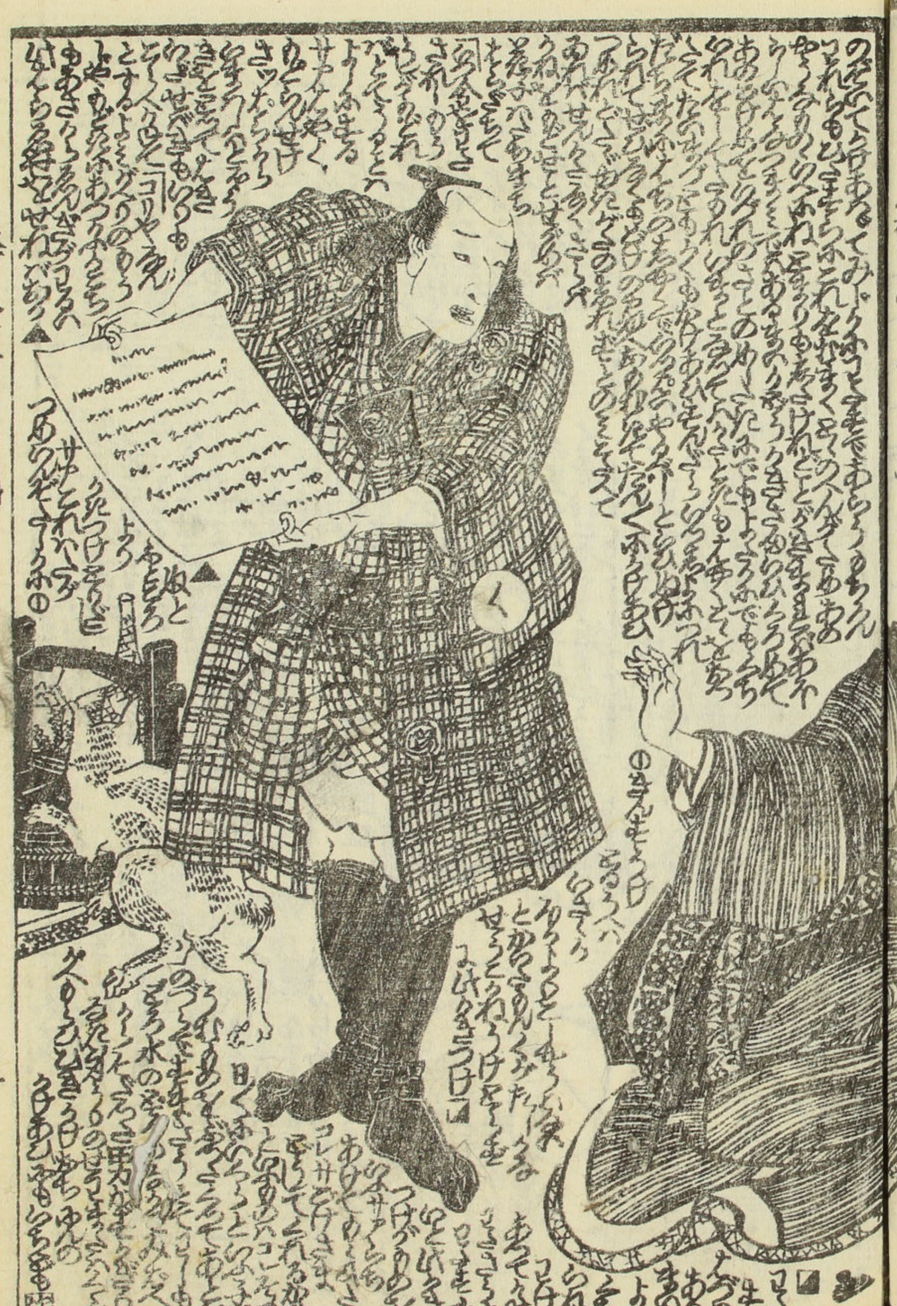


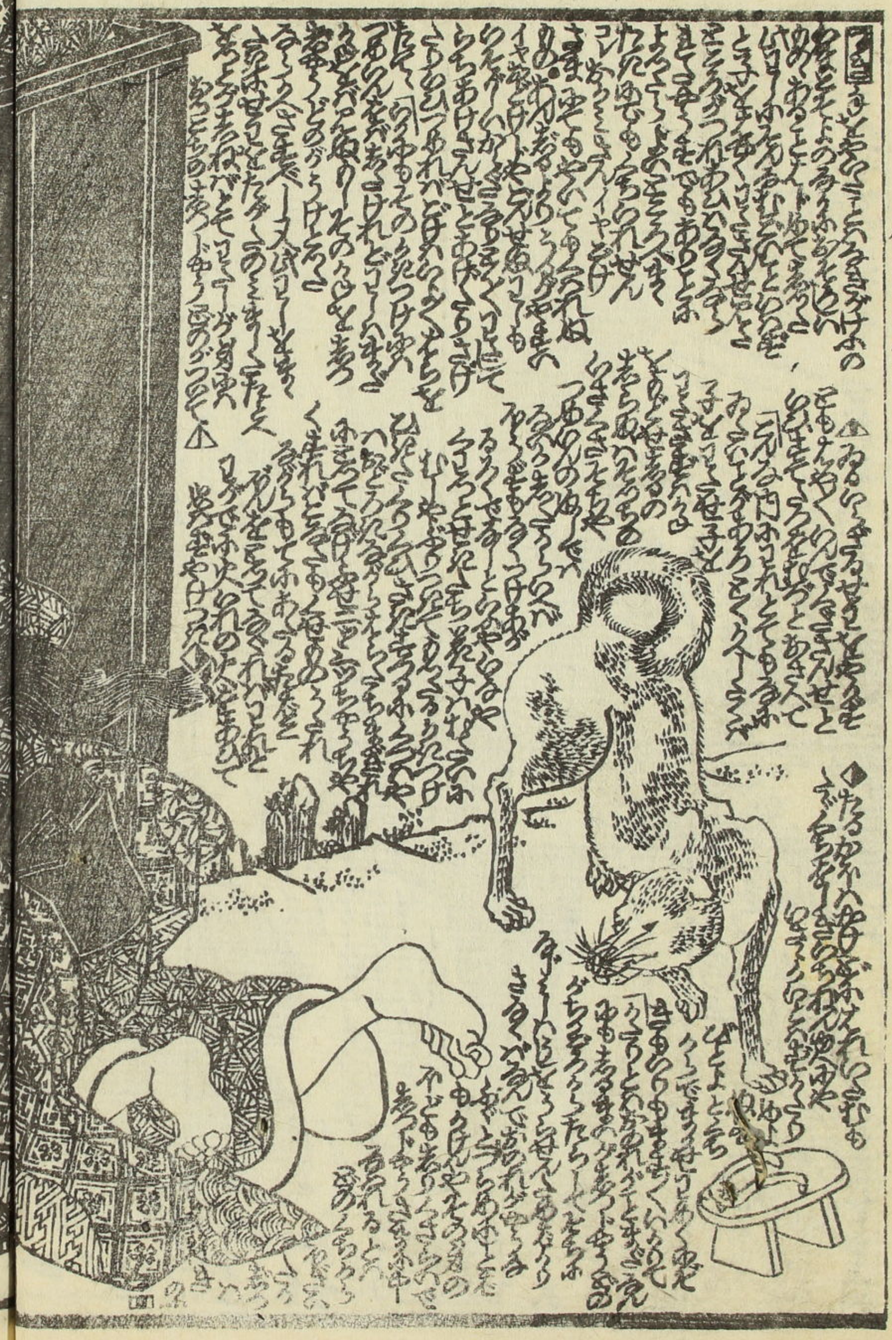
迦毘羅城へ
参内
せらる

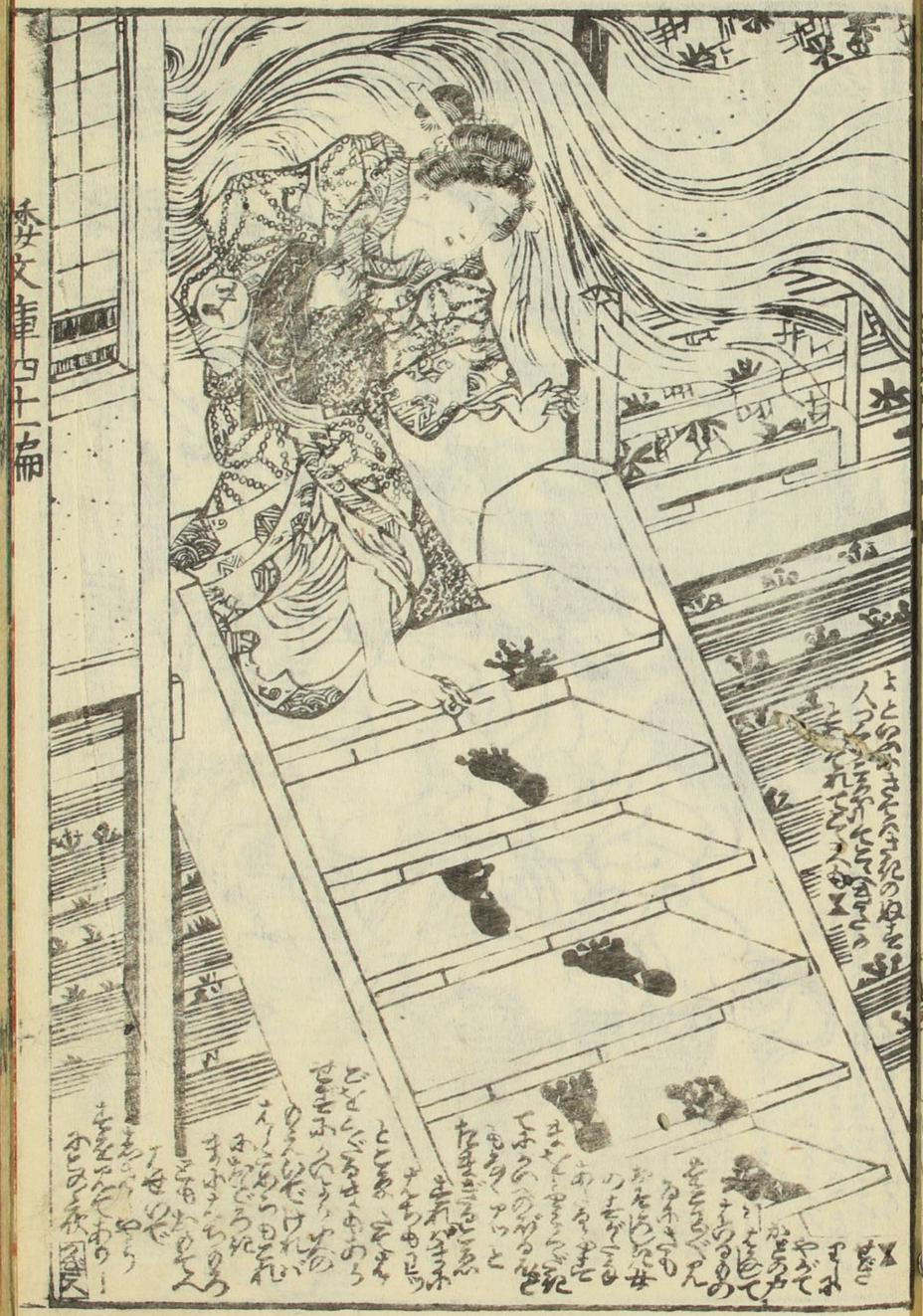
亡八の肝煎

離婆多法師
亡八の肝煎
木詰の悴
牛と大喰んとして
法師
離婆多を
打擲せむ

よしやうち
おのれはおうとへ
かのろうやのさはものりうきまろうとうてゆきて
あとにヨハまろうとうきまようとをそろで
ゆきろうをはゆりゆりゆきとのの
こうろうをはゆりゆりゆきとのの
のうまくゆきてうやゆきとのの
ゆきろうをはゆりゆりゆきとのの
ゆきろうをはゆりゆりゆきとのの
ゆきろうをはゆりゆり





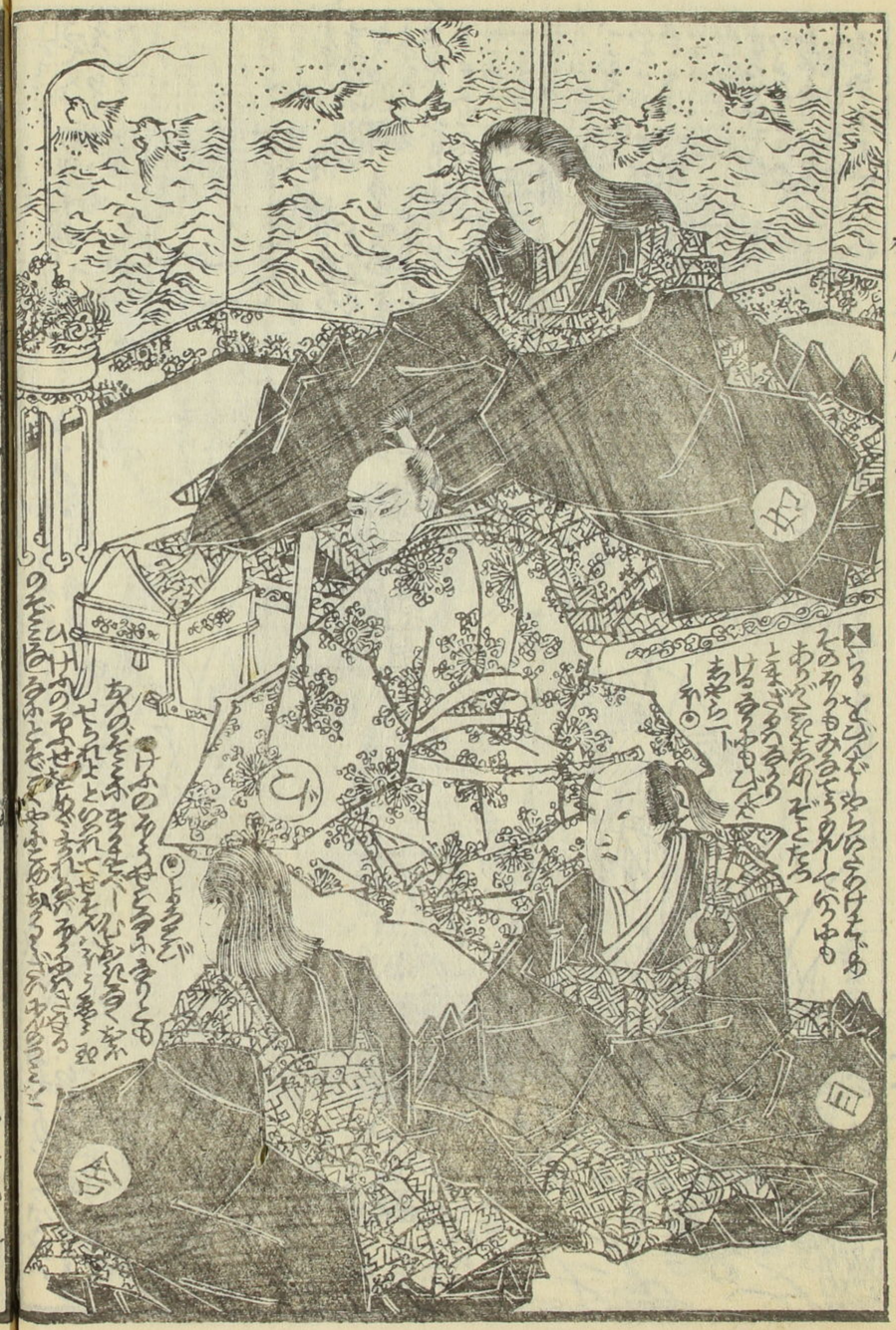


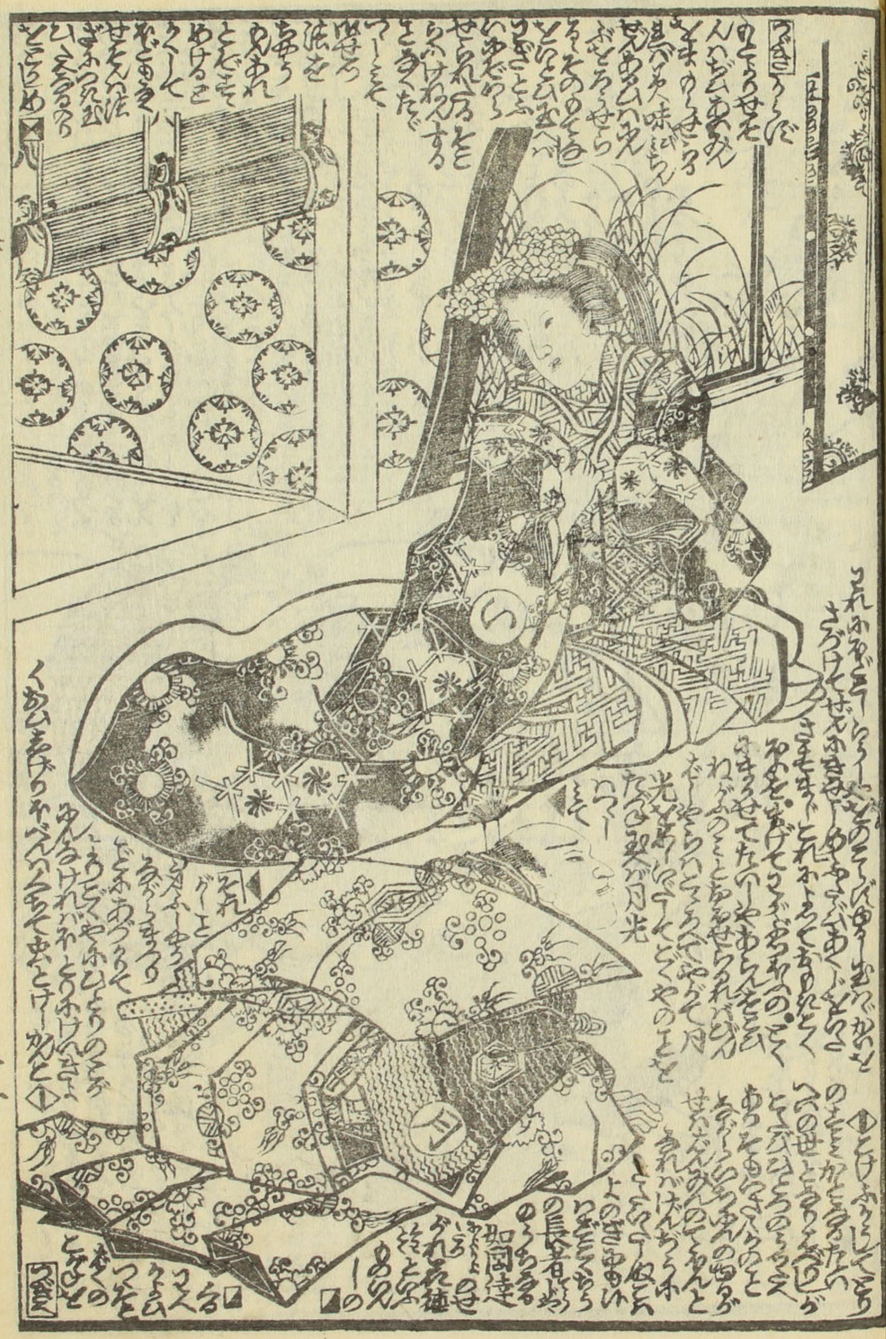
傾文庫　四十編　万亭應賀作
　四十二編　四十三編　一陽齋豊國画
重の井菱染別小紋　二編松亭金水作
昔語小栗實説　三編同　初編柳亭種彦作
花山吹百人女郎　二編同
大寶御江戸圖　極上摺　奉書六枚半續
常磐津懐中本　初編二編小本
　三編四編極上本
繪州紙本類人形町　上州屋重藏

俊文庫四拾編

万亭應賀作

歌川國貞画

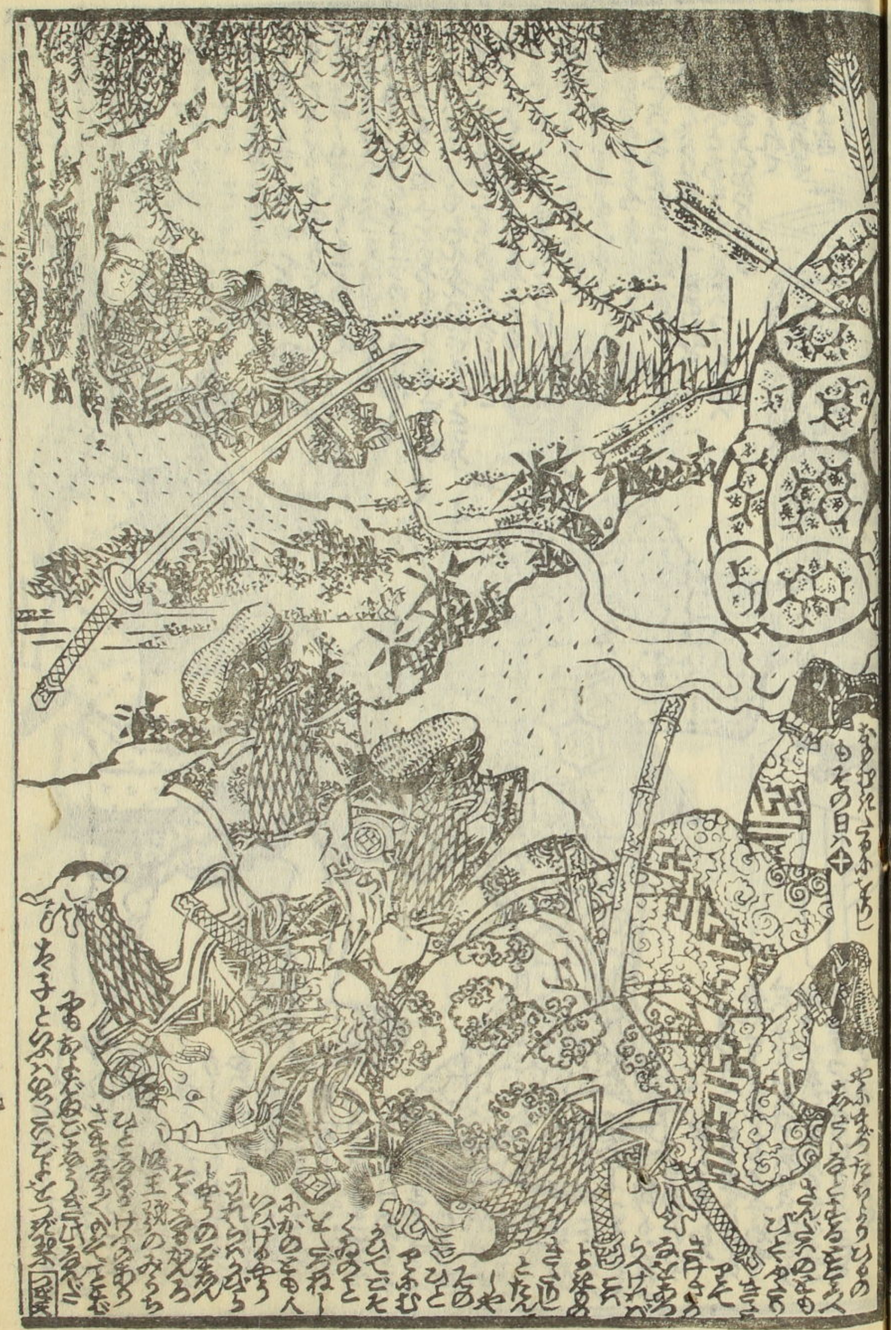


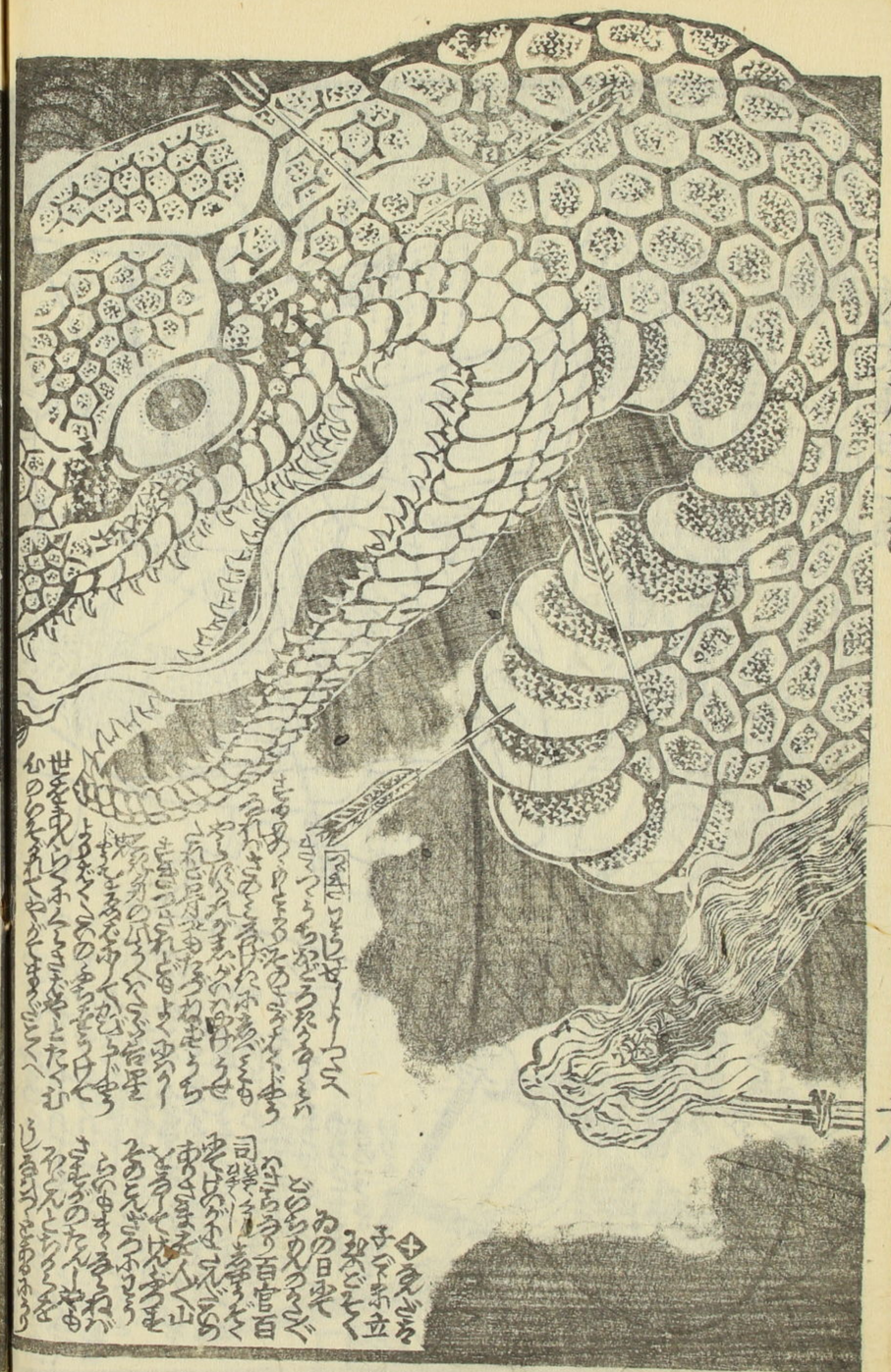


月

生

百世





立場茶屋

俠文庫出世双六　万亭應賀作　一陽齋豊國画

春の手遊　将棊双六　同作　歌川貞房画

男女振合　役替双六　同作　一陽齋豊國画

武家奉公出世双六　同作　同画

奥奉公出世双六　同作　同画

子宝延命袋　全一冊　万亭應賀作　歌川芳玉画

重榮御江戸繪圖　奉書四枚半續

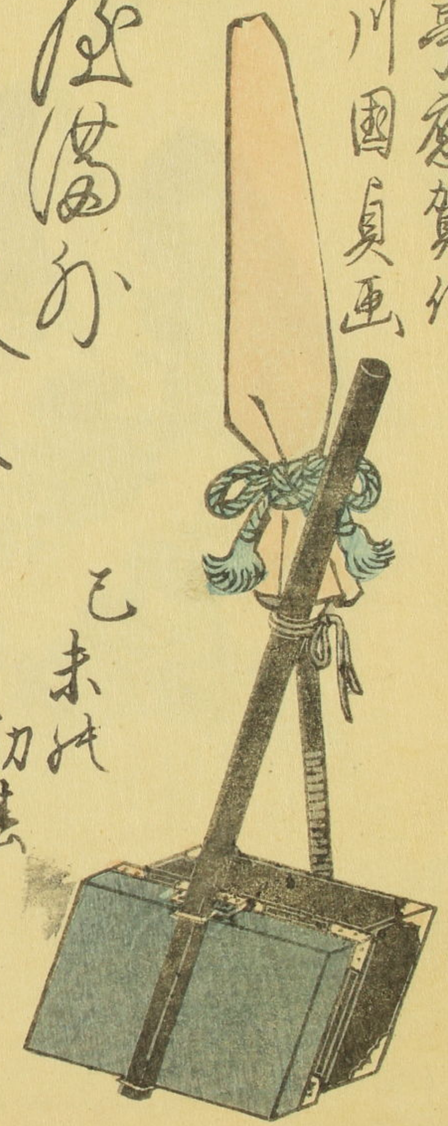
浅草みやげ　初編ヲ五編ヲ十返舎一九作　当年新板　一陽齋豊國画

万亭應賀作　一壽齋國貞画

万亭應賀作

上

万亭應賀作
歌川國貞画

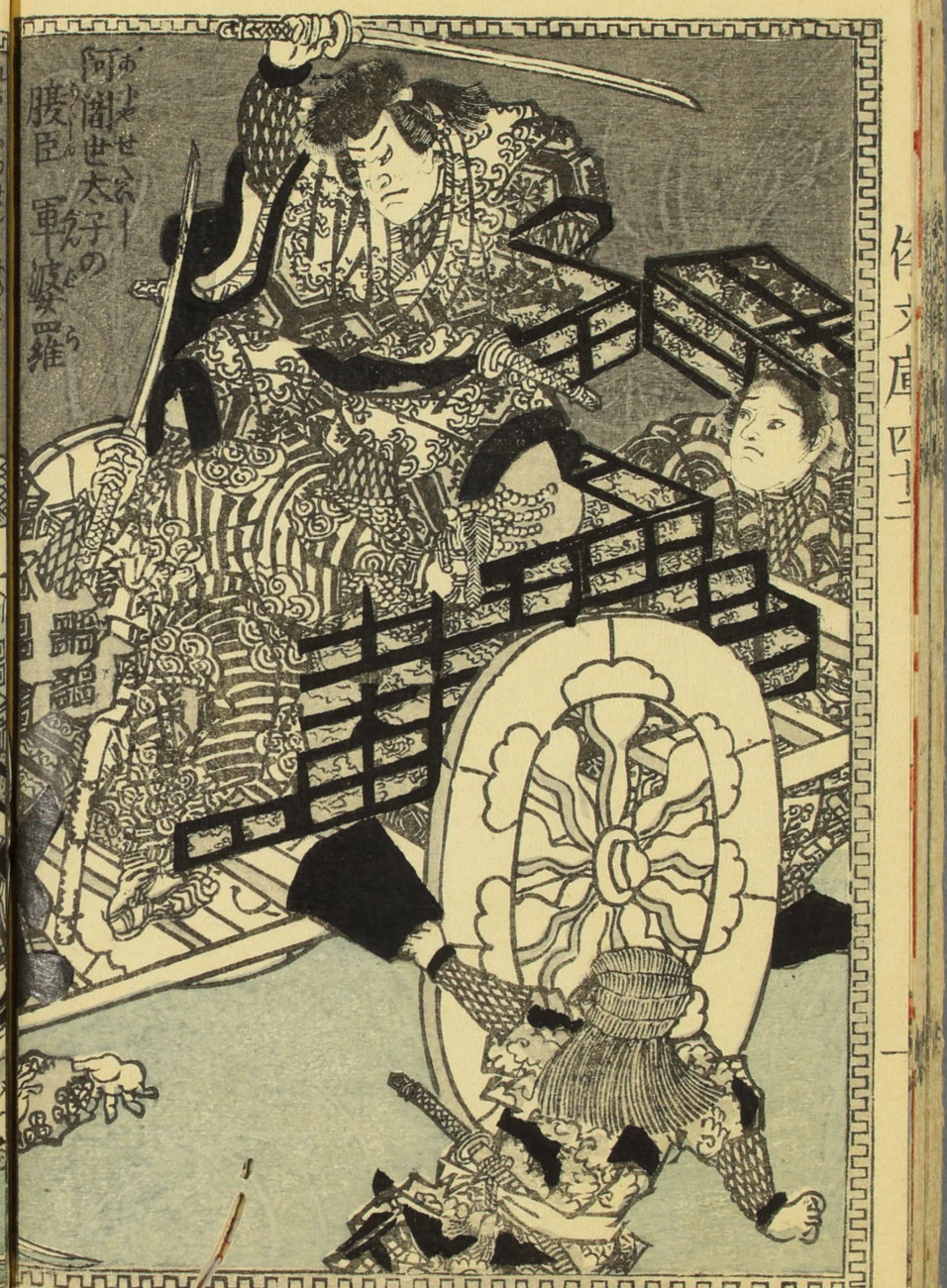


釋迦八相倭文庫四拾二編序

夫天竺の真文至の日満中ゐて艶き無量天の五行の土徳ゐ中て艶き即是黄之数ゐ五すをゐて一尺とも本朝磐陽より摩伽陀国含流沙の川口まで凡三千七百里と云々尚川上ゐ行てヨリヒサラとゐふ城あり此塲へ日本の空海と文珠と法談の所とらるさそ霊鷲山ハ「タイカイの都より四十二里流沙の川上ゐて二月より四月まで〳〵市を立るあまたを八日市とゐふ世尊の滅期より始さるものそんりゃくとも後をゐて前ゐコヲ楊前をゐて後ゐ繰下る少戈利根の得手勝ゐて貧乏人の貴種族舊家の雑作ゐ異ゐて楊下ゐ骨を折るその陳列を誌るさそ二十枚の紙ハ殊らぎ註釋のみ〳〵終る事唯何事も大縣に法推察あまたと尓云

安政六巳未歳
孟春新梓發行

万亭應賀述


阿闍世太子の
臣軍婆羅

靈鷲山の梵王
如來
頻婆娑羅
長者の
法施の
珍寶
幾許を奪採る

座禪石

靈鷲山より四十二里流沙川の上にあり其盤の高さ三十二町流沙川の水上に覆峙て甚奇石なり

釋迦牟尼世尊

天竺の數目

一ヲとむト云　二ヲそトト云　三ヲてれさト云
四ヲうろトト云　五ヲあくトト云　六ヲせのトト云
七ヲせのらくト云　八ヲくトト云　九ヲのひトト云
十ヲてんトト云　百ヲてんむトト云　万ヲとむトト云

印度の名産

一珊瑚珠　流沙川恒河水邊の江海のあるごよりとる多し

一奇楠　男と女と沈香すとふたりたるものゝ

一狼疾羅　うしをかくの用とも

一鯉魚鱸　やりさしよりあるくのるこれを佳味とも

一椰子　實もうらもの繩

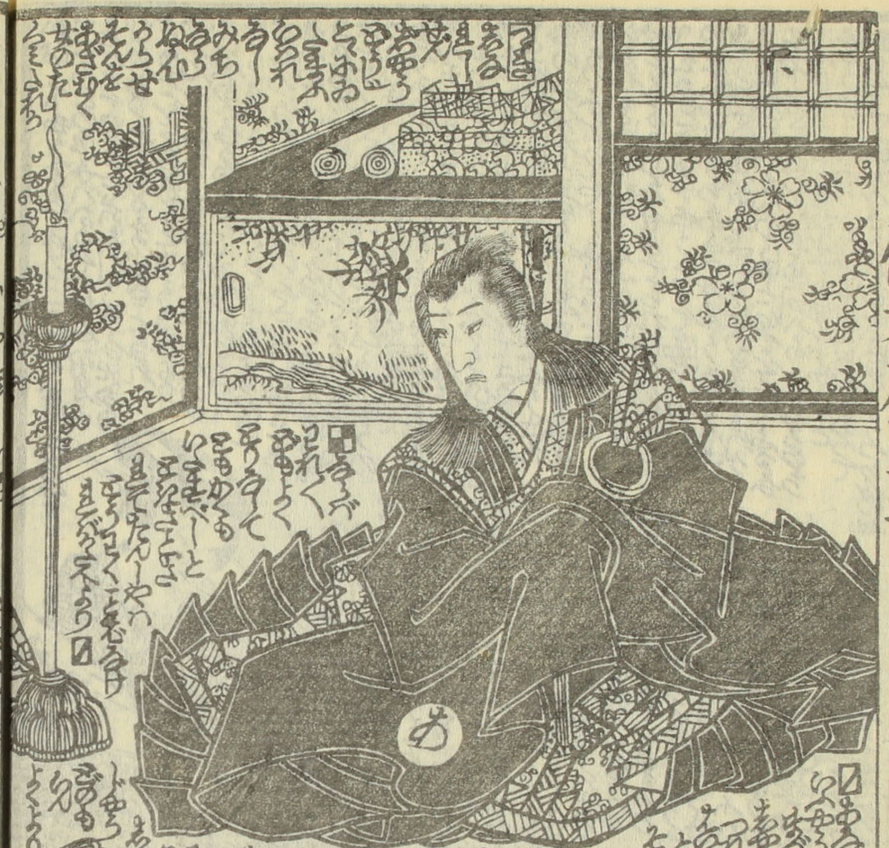
御伽話 九中図

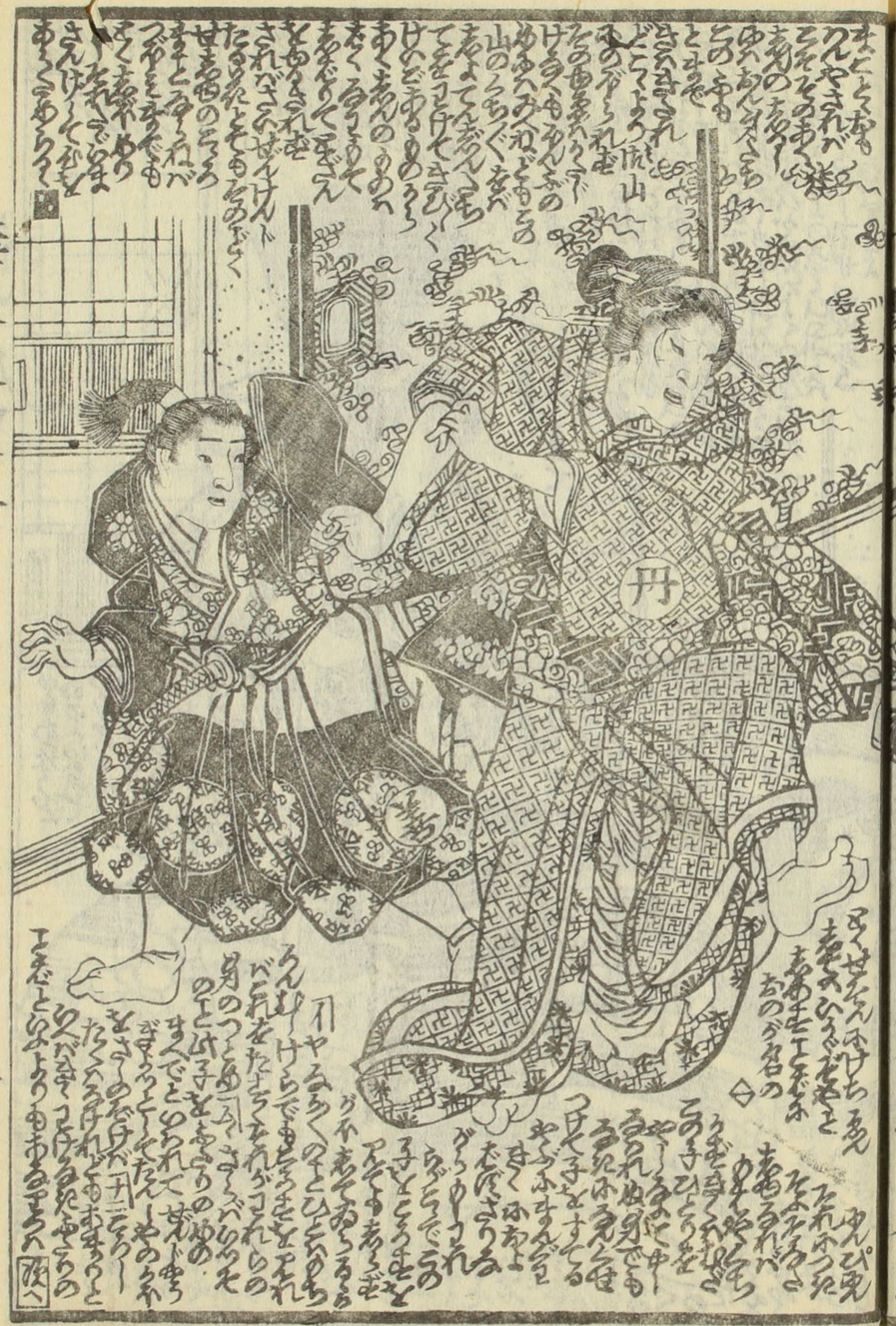
霊亀鳥山著聞山尽

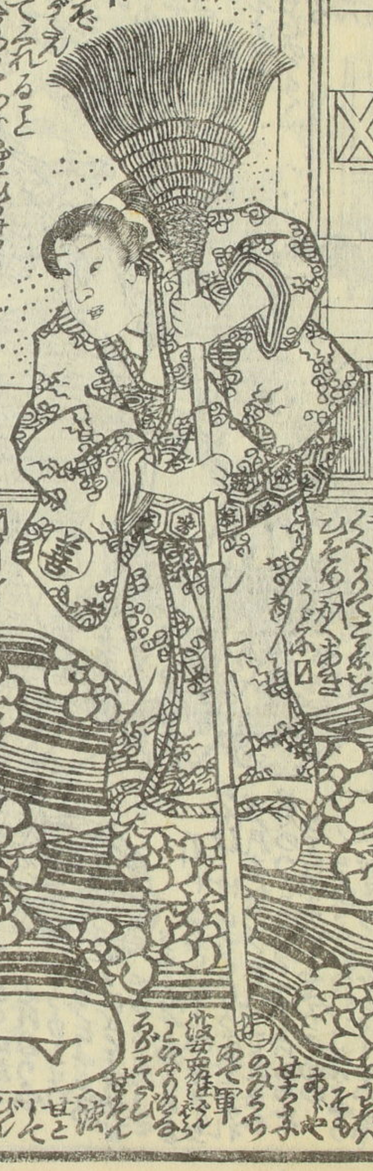
大伊加伊都江 四十二里

登り一里

富
丹







安政六年巳未春新板目録

傾文庫　四十編　万亭應賀作
四十二編　四十三編　一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋　二編　松亭金水作
昔語小栗實説　三編同　金水画

花山吹百人女郎　初編　柳亭種彦作
大寶御江戸圖　二編同　同画

常磐津懐中本　極上摺　奉書六枚半續

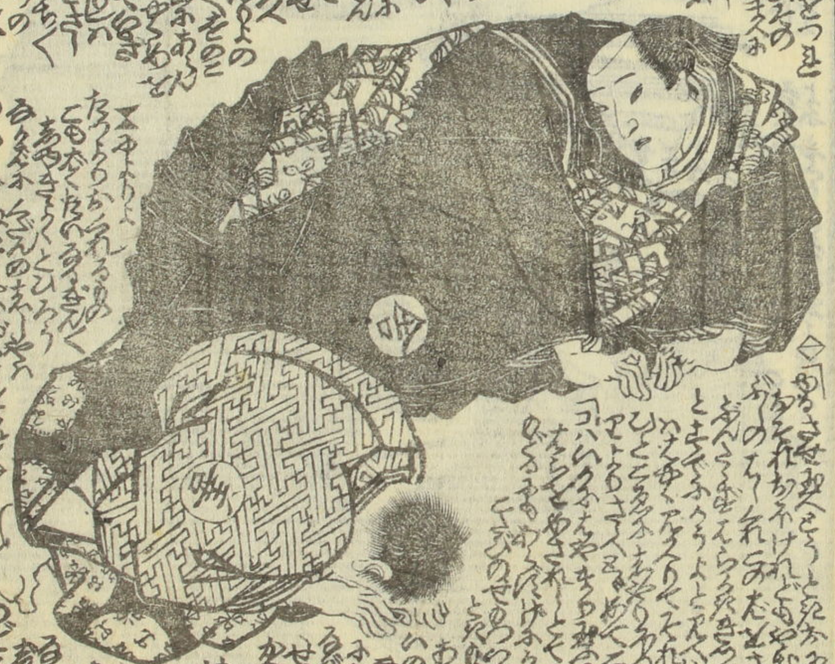
繪州紙本類　人形町　上州屋重藏

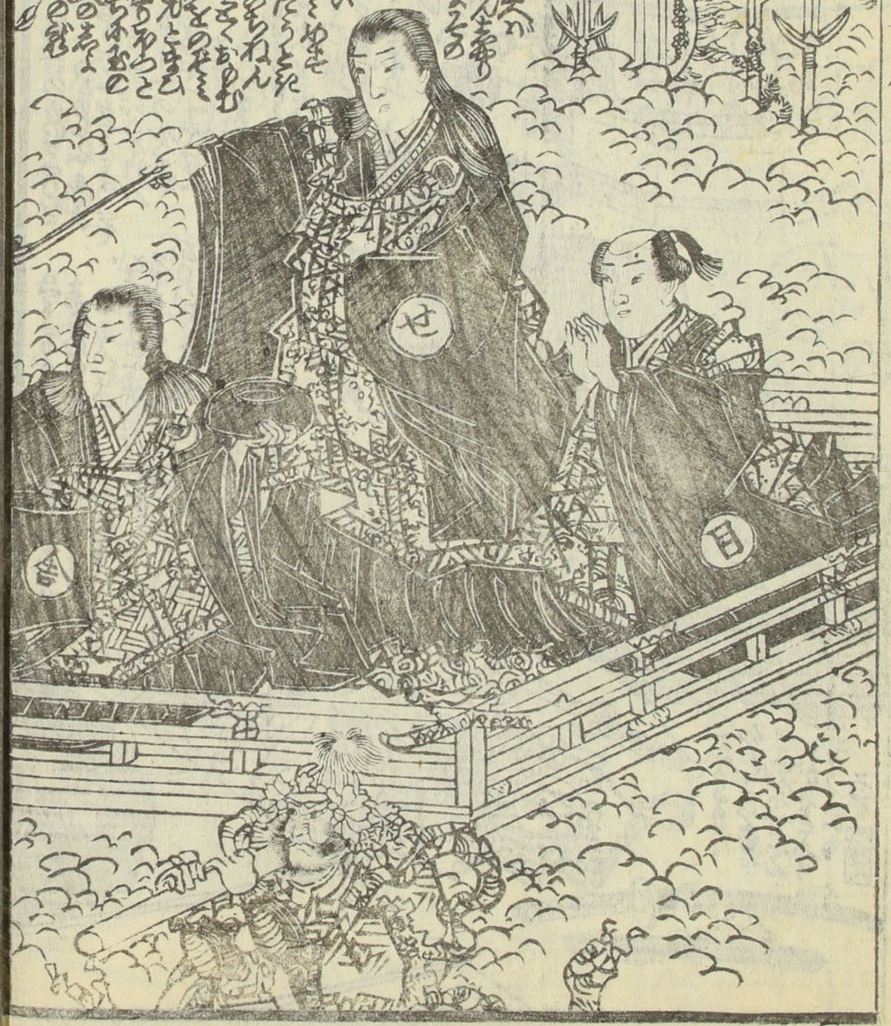
應賀作　國貞画

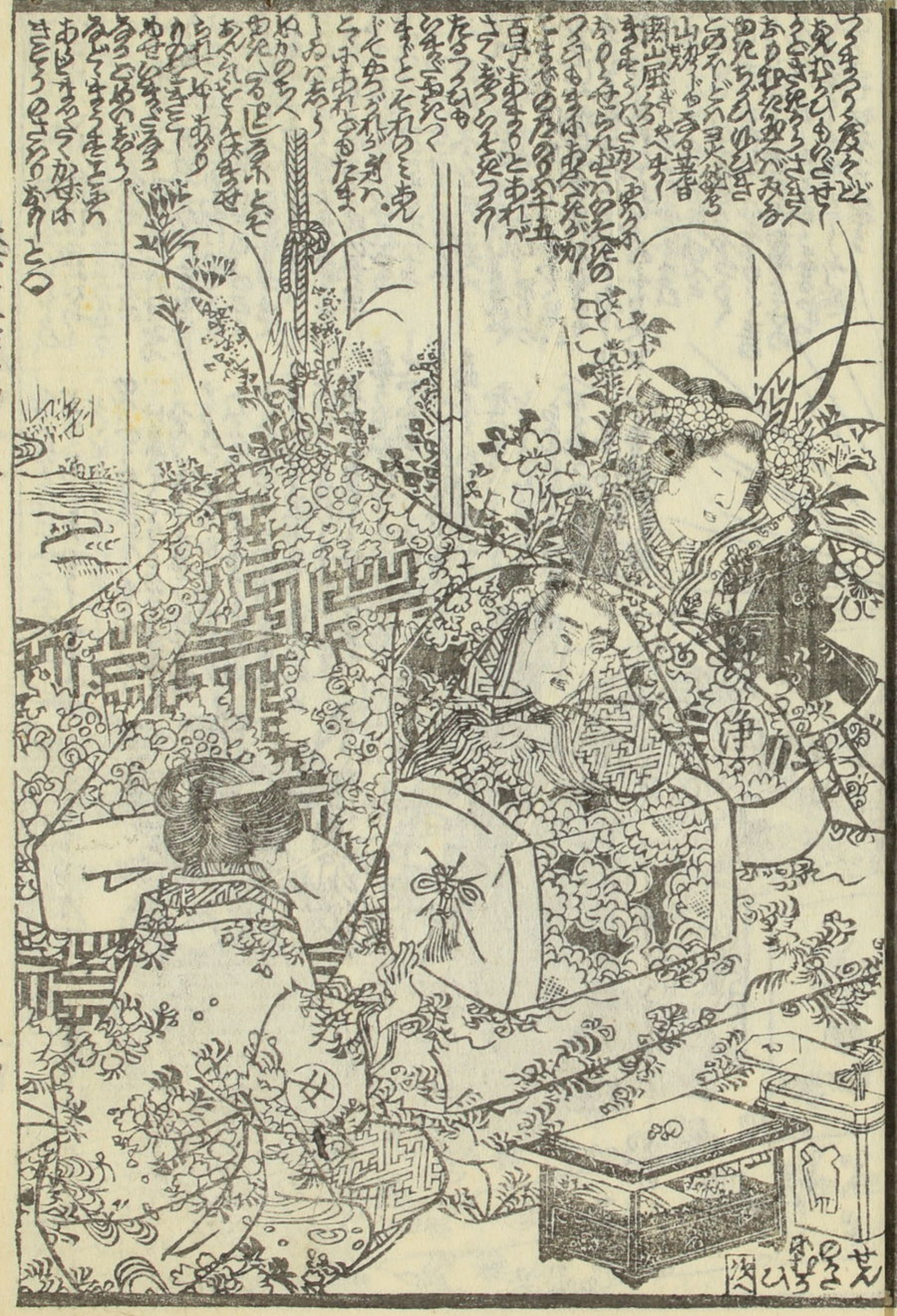
歌川國貞画

錦重堂版

下







万亭應賀作 一壽齋國貞画

安政六年巳未春新板目録

俤文庫出世双六	万亭應賀作 一陽齋豊國画	春の手遊 男女振合	将棊双六
武家奉公出世双六	同作 同画	梅ちりめんまきの有	役替双六
奥奉公出世双六	同作 同画		
子宝延命袋	全一冊 万亭應賀作 歌川芳玉画		
重榮御江戸繪圖	奉書四枚半續		
浅草みやげ	初編より五編を十返舎一九作 当年新板 一陽齋豊國画		

やまと
四十二
淨室雪板
惠雲作